

授業科目名 <英訳>	遺伝カウンセリング演習 1 Genetic Counselling, Exercise 1				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 小杉 眞司					
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 通年不定	曜時限	2・4週:金5・6限	授業 形態	演習	使用 言語	日本語

[授業の概要・目的]

【基本情報】授業日時：金曜（原則第2、第4）5・6限、教室：G棟セミナー室A
 レベル：遺伝カウンセリング演習1（基礎）・遺伝カウンセリング演習2（応用）
 担当者：小杉眞司・和田敬仁・玉置知子・村上裕美・鳥嶋雅子・レクチャー担当者
 【コースの概要】実際の遺伝カウンセリング症例を提示し、遺伝的問題、医学的問題、療養問題、社会的問題、法的問題、倫理的問題、心理的問題等について、他のカンファレンス参加者とともに、徹底的な討論を行う。1年次後期からは、実際の遺伝カウンセリング実習で体験した症例について、自ら提示を行い、カンファレンスを中心的に運営する。これは、京都大学と近畿大学の遺伝カウンセラーコースのカリキュラムの中で最も重要なものであり、両大学の院生が積極的に参加するものである。実習期の院生（2回生4月 10月ごろ、1回生11月ごろ 年度末、移行期は各コースの実情による）は、原則として毎回症例提示を行うこと。16:30-18:30ごろ：合同カンファレンス症例提示・検討会（1回4例 6例となるように調整し、進行は司会がタイムキーピングを行う）。18:30ごろより50分程度：京大・近大遺伝カウンセラーコースの修了者による遺伝カウンセラーとしての活動などに関するプレゼン、あるいは合同カンファレンス出席者・招聘演者等によるレクチャー
 【教育・学習方法】症例提示・討論、カンファレンス記録の作成（症例ごとに順番で担当）

[到達目標]

症例の適切なプレゼンテーション、種々の問題点の整理と今後の対応方針の決定、討論への参加と論理的な主張、適切なカンファレンス記録の作成ができる

[授業計画と内容]

<司会>カンファレンスレクチャー担当者

【第1回】4/14<小杉>小杉眞司「イントロダクション」

【第2回】4/28<村上>山田崇弘

【第3回】5/12<鳥嶋>鳥嶋雅子

【第4回】5/26<和田>和田敬仁

【第5回】6/9<小杉>玉置知子「A-OSCEについて」

【第6回】6/30

【第7回】7/28

【第8回】10/13

【第9回】10/27

【第10回】11/10

【第11回】11/24

【第12回】12/8

【第13回】12/22

【第14回】1/12<小杉>「新年懇談会」

【第15回】1/26

<合同カンファレンスの具体的進行方針> 1) 目的：実習報告会ではない。同席者の感想等は除外。症例検討を主題とし、適切な遺伝カウンセリングがなされたか、誤った点や不足する点はなかったか等、専門家の意見、討議を聞きそれに参加する。多くの人の意見を聞けるよう、今後の遺伝カウンセリングに実質的に生かせるように討議の時間を確保する。

2) プレゼンテーション準備：開始前にあらかじめプレゼンテーションを行う全てのパワーポイントファイルを開けておき、速やかに次のプレゼンへ移れるようにする。

 遺伝カウンセリング演習1(2)へ続く

遺伝カウンセリング演習 1 (2)

- 3) プレゼンテーション：客観的な事実を端的にまとめる。まず、背景と主訴を参加者に理解してもらう。遺伝カウンセリングの経過、問題点も簡潔に示す。発表時間15分以内、議論10分程度。
- 4) スライド：議論が整理しやすいように箇条書きが望ましい。次の枚数を原則とする。前半：タイトル(日付・発表者・担当医名を含む)(1枚)、疾患理解のための説明(1枚)、受診の背景・主訴、家系図を含めて(2枚)。後半：遺伝カウンセリング経過(1-2枚)、課題・問題点(1-2枚)
- 5) 進行：冗長なプレゼンに対しては簡潔に行うよう指導し、建設的ディスカッションを行う。
- 6) アセスメントについて：質問や自分の意見、感想は全体の議論の話題になったら自分の意見として発言する。どうしても最初から出す必要がある場合は指導教官・同席医師と相談の上で行う。
- 7) 終了後：ディスカッションの内容を含んだスライドを1枚追加する。担当医確認の後、「遺伝カウンセリング記録」および「カンファレンス記録」の2箇所保存する。(カンファ後1週間以内)
- *個人情報に接することがあるため、初回参加時には「誓約書」を提出する。遺伝カウンセリング内容についての会話は、他者のいるところではしないこと、内容を記したノートは、他者の目にふれないようにすること、ノートの貸し借りは禁止。

【履修要件】

遺伝カウンセラーコース限定必修科目(事前確定科目) 1回生は「遺伝カウンセリング演習1」、2回生は「遺伝カウンセリング演習2」

【成績評価の方法・観点及び達成度】

プレゼンテーション、討論への積極的な参加、カンファレンス記録の作成などを総合的に評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

【授業外学習(予習・復習)等】

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>		遺伝カウンセリング演習 2 Genetic Counselling, Exercise 2				担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 教授 小杉 眞司			
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 通年不定	曜時限	2・4週:金5・6限	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>【基本情報】授業日時：金曜（原則第2、第4）5・6限、教室：G棟セミナー室A レベル：遺伝カウンセリング演習1（基礎）・遺伝カウンセリング演習2（応用） 担当者：小杉眞司・和田敬仁・玉置知子・村上裕美・鳥嶋雅子・レクチャー担当者</p> <p>【コースの概要】実際の遺伝カウンセリング症例を提示し、遺伝的問題、医学的問題、療養問題、社会的問題、法的問題、倫理的問題、心理的問題等について、他のカンファレンス参加者とともに、徹底的な討論を行う。1年次後期からは、実際の遺伝カウンセリング実習で体験した症例について、自ら提示を行い、カンファレンスを中心的に運営する。これは、京都大学と近畿大学の遺伝カウンセラーコースのカリキュラムの中で最も重要なものであり、両大学の院生が積極的に参加するものである。実習期の院生（2回生4月 10月ごろ、1回生11月ごろ 年度末、移行期は各コースの実情による）は、原則として毎回症例提示を行うこと。16:30-18:30ごろ：合同カンファレンス症例提示・検討会（1回4例 6例となるように調整し、進行は司会がタイムキーピングを行う）。18:30ごろより50分程度：京大・近大遺伝カウンセラーコースの修了者による遺伝カウンセラーとしての活動などに関するプレゼン、あるいは合同カンファレンス出席者・招聘演者等によるレクチャー</p> <p>【教育・学習方法】症例提示・討論、カンファレンス記録の作成（症例ごとに順番で担当）</p>											
【到達目標】											
症例の適切なプレゼンテーション、種々の問題点の整理と今後の対応方針の決定、討論への参加と論理的な主張、適切なカンファレンス記録の作成ができる											
【授業計画と内容】											
「遺伝カウンセリング演習1」と同じ											
【履修要件】											
遺伝カウンセラーコース限定必修科目（事前確定科目）1回生は「遺伝カウンセリング演習1」、2回生は「遺伝カウンセリング演習2」											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
プレゼンテーション、討論への積極的な参加、カンファレンス記録の作成などを総合的に評価する。											
【教科書】											
ハンドアウトの配布は、原則としてありません											
【参考書等】											
（参考書）											
----- 遺伝カウンセリング演習2(2)へ続く -----											

遺伝カウンセリング演習 2 (2)

[授業外学習（予習・復習）等]

(その他（オフィスアワー等）)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。